長崎商工会議所青年部 政策提言書 第2章

1. プロジェクト名 「夜景世界一のまち 長崎を目指して」

2. 提言のねらい

平成27年、明治日本の産業革命遺産 製鉄・ 製鋼、造船、石炭産業はユネスコの世界文化遺産 に登録され、交流人口の増加を目指す上でまたと ない好機となっております。

大型クルーズ客船の長崎港入港数も飛躍的に 増えており、平成26年は年間75隻でしたが、





平成27年は過去最多の131隻、平成28年は191隻の 入港が見込まれています。松ヶ枝岸壁の2バース化 が計画され、今後も拡大が見込まれるアジアの クルーズ需要の取り込みが期待されます。

平成34年には九州新幹線西九州ルートの開業 予定であり、長崎自動車道(長崎芒塚IC~長崎 多良見IC)の4車線化やLCCの普及に伴い長崎空港

の24時間運用が検討されるなど、より多くの観光客を受け入れる体制が整いつつあります。

平成26年の観光客数は過去最高の630万6,800人と前年比3.8%増でしたが、宿泊客数は前年比1.8%増と、少し低めの推移となりました。観光客の消費金額を増やすためには、やはり宿泊客数の増加、宿泊日数の長期化が重要であり、我々はそれらを伸ばす要素として『夜景』のさらなる活用に大きな可能性を感じています。観光が好調なうちに打つべき次ぎなる一手として、夜景観光に磨きをかけましょう。



平成24年10月、長崎は香港、モナコと世界新三大夜景に認定されました。長崎港を取り囲む、すり鉢状の起伏に富んだダイナミックな地形を有し、また様々な視点場から夜景観賞が出来る点が評価されました。都会のビル群の夜景とは趣が異なり、人々の生活の灯りで成り立つ、港町の情緒あふれる夜景が特徴です。長崎YEGの会員100名にアンケートを実施し好きな夜景スポットを尋ねると、何と26ケ所もの回答がありました。それだけ夜景を楽しむ場所に恵まれているといえます。

長崎 YEG 会員へのアンケート 好きな夜景スポット

順位	人 数	場所	
第1位	36	稲 佐 山	
第2位	14	鍋 冠 山	
第3位	8	立 山	
第4位	3	出雲近隣公園	
第5位	各2	出島ワーフ、浜平、小江原、女神大橋	
第6位	各1	水辺の森公園、風頭山、矢太樓、女神バス停付近、唐八景、 大浦、こしき岩、愛宕、西坂、長崎港海上、三菱工内、 あたご自動車学校の坂、朝日町、三原、弥生町、福の湯、 三景台、思案橋	

(回答者100名 複数回答、未回答あり)

葉加瀬太郎さんは平成26年のライブ イマージュ全9公演、同年秋から冬の47都道 府県を回る全60公演で「長崎夜曲」を演奏し、 長崎の夜景を全国へPRしました。

また、福山雅治さんは夏の大創業祭2015 稲佐山にて「6年前の稲佐山ライブの時は 日本三大夜景だったが6年経った今は世界 新三大夜景に認定されている」とMCで紹介し ました。

長崎の夜景は平成27年10月には日本新三大夜景にも選出されました。4,500人の夜景鑑定士による投票では札幌、神戸をおさえ1位でした。

日本ではトップクラス、世界でも有数の 夜景都市となりつつあります。鍋冠山の 展望台もリニューアルし、いよいよ4月から は稲佐山の電波塔ライトアップが常設化に なります。





本年1月、観光庁は「観光立国ショーケース」として訪日外国人旅行者を地方へ誘客 するモデル都市として釧路市、金沢市、そして長崎市を選定しました。

平成32年の東京オリンピックにむけ、多くの外国人旅行者に選ばれ、世界に通用する魅力ある観光地域をつくるうえで、すり鉢状の長崎の地形を活かした夜景のコンテンツを徹底して磨き上げ、満足度の高い滞在プログラムをつくり、長崎を夜景のまちとして徹底的に発信しましょう。世界一の夜景都市として更に高みを目指し、すり鉢状の地形の持つ潜在能力をフルに活用しましょう。

稲佐山や、鍋冠山など上から見下ろす夜景はもちろんですが、街中から見上げて楽しむ 夜景の整備、また稲佐山展望台へのアクセスなどについて提言させていただきます。

3. 長崎YEGの夜景への取り組み

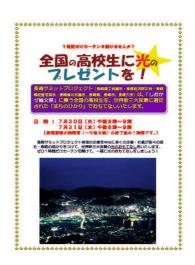
長崎YEGではこれまでも「地域経済の更なる発展に貢献する」コンセプトの元、交流人口の増加や夜景観光の発展を目指し様々な事業を行ってきました。

平成24年度、夜景力を高め「ひかりのまち長崎」を広くアピールする為「ながさき ひかるプロジェクト」について政策提言させて頂きました。

平成25年度は世界新三大夜景を積極的にPRする事を目指し、世界的バイオリニスト 葉加瀬太郎氏に長崎夜景のテーマ曲の楽曲依頼。多くの方々のご協力のもと「長崎夜曲」 を発表する事が出来ました。

また、同年開催されたしおかぜ総文祭の時には「光のおもてなし」を実施。市民に広く呼びかけ、カーテンを開け街の灯りを増加させることで全国から来た高校生にさらに綺麗な夜景を見ていただきました。





平成26年度は「長崎夜曲」の楽譜を作成し約400 の学校や楽団に配布しました。今では定期演奏会 などで演奏される機会が増え、新たな長崎の曲 として定着しています。

また長崎がんばらんば国体・大会に合わせて 長崎市内35社の協賛により、稲佐山山頂の電波塔 を仮設でライトアップし「光のおもてなし2014」 を実施。期間中にお越しいただいた多くの皆様に 上から見下ろす夜景と下から見上げる夜景の



両方を楽しんでいただきました。稲佐山展望台においては光と音の融合を目指し定刻 毎に「長崎夜曲」に合わせたイルミネーションショーを実施しました。





12月には室蘭の測量山ライトアップを視察。室蘭ルネッサンス事務局と意見交換を行い、国体期間中に稲佐山展望台で行ったアンケートなどと合わせて「稲佐山電波塔ライトアップ常設化」の政策提案を行いました。

平成27年度は被爆70年を契機に、福山雅治氏の楽曲「クスノキ」を多くの長崎市民に 歌い繋いでいただくクスノキリレーソングプロジェクトを企画し、7月下旬に開催された

ながさきみなとまつりにて初お披露目しました。 その後Youtubeにおいて世界に発信。長崎の美しい 夜景をふんだんに織り交ぜたこのリレーソング 映像は平成28年3月1日現在43,000人以上に 観賞され、確実に夜景のPRにつながっています。

また、福山☆夏の大創業祭2015に合わせて稲佐山の電波塔のライトアップを福山氏サイドへ提案し、実施されました。音楽とライトアップの融合を目指し曲毎に異なるライトアップがなされ、電波塔ライトアップの新たなる可能性を感じることが出来ました。花火と電波塔ライトアップの競演も初めて実現しました。





8月の参拝客増加が予想された山王神社においては、夜間境内点灯を神社側に提案し 実施されました。

長崎の夜景を全国へ発信するためフェイスブックページ「ながさきひかるプロジェクト」 を運営。多い時には20,000人以上の方に閲覧いただいてます。





4. 提言 1 稲佐山展望台へのアクセス向上

夜景を見る、数ある視点場の中でも、知名度や 駐車場のスペースなどから稲佐山が当面中核的 な位置を維持すると見込まれます。

稲佐山の展望台に行くには、自動車で行く手段 もありますが、公共交通機関で行く場合、ロープ ウェイを利用することとなります。このロープ ウェイは昭和34年から運営され、建設費が当時の



価格で1億2000万円。山頂の「稲佐岳駅」と麓の「淵神社駅」の全長1,090mを約5分で結ぶ路線です。定員は31人。数年前に車体をリニューアルし、駅舎のリニューアルも 先頃完成しました。間もなくバリアフリー化のためのエレベータも完成します。

ロープウェイは、年間約19万人が利用し、短時間で「新世界三大夜景」に到達できる、 長崎の夜景観光の重要なインフラとなっています。





さて、夜景観光の老舗である函館市に目を転じてみましょう。函館の平成26年の観光客数は、約484万人で長崎市のほぼ4分の3になります。このうち、何と約150万人が函館ロープウェイを利用して夜景観光を楽しんでいます。函館は、当初長崎とほぼ同じ時期にロープウェイを開業し、当時31人だった定員を少しずつ増強し、昭和45年には45人、昭和63年には125人乗りと定員を増やしています。

長崎の観光客は630万人、函館と同じ割合でロープウェイに乗って夜景観光に向かうなら、約180万人が利用しているはずです。もっとも、車体の定員が函館は125人、長崎は31人と違うので、この点を考慮すると約45万人。しかし、現実には長崎のロープウェイは約19万人が利用しているだけの状況です。





そう考えれば、長崎のロープウェイはまだまだ伸び白が大きく、利用度を上げること によりさらなる夜景観光の掘り起こしに繋げることが出来ると考えられます。 函館と比較すると、明らかにアクセスが悪いことがわかります。函館は路面電車から

そう遠くない場所に乗り場がありますが、長崎の 場合、バスに乗ってからさらに徒歩で坂を上がる 必要があります。実際、観光客アンケートでは 「乗り場がわかりにくい」という声が多いそうで すし、これに応える形で様々な工夫がなされてい ます。





※「ホテルモントレ長崎」をご利用のお客様は、長崎バス「市民病院前」 バス停でのご乗車になります。

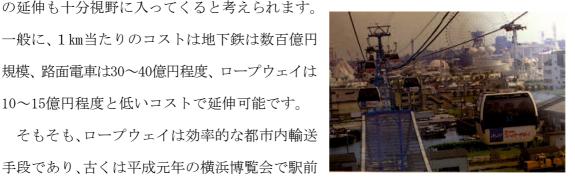
稲佐山展望台利用者約55万人中、自動車利用者が27万人、バスが7万9千人、ロープ ウェイが19万人となっています。この数字は、24~5万人は十分可能なレベルであり、 理論的には30万人、発車頻度を増やせばさらに多く運べるという状況にあります。

そう考えれば、各種の交通手段の新規敷設に要する費用を比較すれば、ロープウェイ

一般に、1 km当たりのコストは地下鉄は数百億円 規模、路面電車は30~40億円程度、ロープウェイは 10~15億円程度と低いコストで延伸可能です。

そもそも、ロープウェイは効率的な都市内輸送 手段であり、古くは平成元年の横浜博覧会で駅前 から会場までをつなぐロープウェイが営業して いました。

最近では、外資系の報道機関であるブルーム バーグ社を通じて「東京湾岸ロープウェイ」構想 が浮上しています。これは汐留から五輪会場を つなぐものです。





世界に目を転ずれば、コロンビアのメデジン市 はロープウェイを使ってまちを再構築しよう としています。

九州でも、JR九州が博多駅と博多港をつなぐ 構想を提言しています。両施設を大博通りの上空 2.5kmでつなぎ博多駅や博多港ターミナル乗り入れ も検討されてます。

実際、長崎のまちは、三菱重工幸町工場が撤退 の意向を伝え、この場所の土地利用が宙に浮くと ともに、長崎駅西口の土地を「交流拠点用地」







として長崎市が買い入れるなど、中心部の土地利用 に空白ができている状況であり、索道下の土地を 所有又は借地しなければならないロープウェイ について延伸できるいいチャンスではないで しょうか。

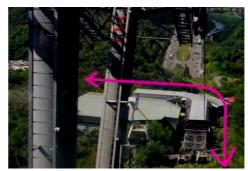
淵神社駅から直線で延伸する場合には、ちょうど銭座町付近に直接ぶつかり、当該 公園の付近でロープウェイ発着を行うこととなります。





屈曲路線を使うと、幸町工場敷地に一部入り込みますが、そこで直角に曲がり、浦上川沿いに駅西口の交流拠点施設の予定地にたどり着けます。一見、ロープウェイで曲がるのは難しそうですが、香港や台湾など世界各国で屈曲路線は展開されているものであり、実現可能です。



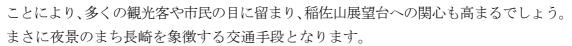


台湾 (猫空)

長崎市が整備を進める「交流拠点用地」から稲佐山展望台までが実質的に直結し、 長崎駅や交流拠点用地に来た人々が、そのままひとつの交通手段で夜景観光を楽しむ ことが可能となります。

延伸と言っても、淵神社駅から同じロープを 用いて延伸するのは様々な制約があり難しそう です。他方、延伸するために、長崎駅西口から 淵神社までを新規路線として開設するほうが 既存のシステムをそのまま用いることができる ことから、より可能性が高いと思います。

長崎駅や交流拠点用地まで浦上川沿いを通る



この場合、淵神社駅が「乗換駅」となります。駅舎は改修工事を終え、和をイメージさせる空間となっています。一般に神社の境内は、今でも、特に宣伝をしていなくても外国人観光客の人気の場所になっているので、アクセスしやすくなった淵神社は長崎の「和」の代表的空間のひとつとして位置づけられるのではないでしょうか。福山雅治さんと縁のある「福守り」などコンテンツも充実しています。市内で中島川寺町界隈、丸山界隈に並ぶ和のスポットとして育てることが可能だと思います。





費用ですが、ほぼ1km程度の新規路線となります。1991年の新神戸ロープウェイの建設単価をみると、14.2億円/km。台湾の猫空ロープウェイが全長4.03km。開設のため要した費用が報道によってばらつきがありますが、日本円換算で37億~44.6億円。1km当たりでみると9.18億円~11.1億円。やはり10億円前後です。仮に15億円で計算して、公募の長崎県地方債の水準である0.515パーセントの条件で借り入れを行うことになると、10年後の総償還額は15億7,900万円となります。

効果のほうはさまざまなものがあり得ますが、直接効果分を考えてみると、既存のロープウェイ利用者が現在の19万人から現在の運行形態での理論上の上限値である30万人に到達すると見込んだ場合、往復運賃1,100円×11万人で合計年間1.2億円の増となります。こちらは若干のコスト増があっても、基本的には純増になります。

また、新規路線の分が控えめに見て30万人。仮に往復500円という良心的な価格設定とした場合、30万人で年間1.5億円。既存路線と合わせ年間2,7億円の収入増です。10年で27億円の利益が生じ、屈曲地点の建設費など新規路線の他のコストを勘案しても10年間の償還金額約16億円を十分ペイできます。

波及効果は大きく、11万人が夜景観光に積み増されることで夕食を長崎で食べる方や宿泊客が増加し、その上積み分は年間1億円を超えるでしょう。またシャトルバスへの助成金も削減できるかもしれませんし、これまで行き来していなかった場所とのシャトル便を実現できるかもしれません。

費用対効果を上げればここに記したようなものになりますが、まずはこのようにロープウェイ新規路線でアクセス改善をし、そのことで夜景観光を大きく伸ばしていくこと、また、淵神社で乗り換えることとする場合、そこが新しい「和」のスポットとしてインバウンドの魅力を高める





ことにもなります。さらには、駅周辺再開発と交流拠点用地との連動を考えれば、 大きく伸びていく可能性を秘めています。

5. 提言2 光のコンテンツ

稲佐山電波塔ライトアップの常設化に伴い、観光立国ショーケースのモデル都市として、平成32年の東京オリンピックに向け4段階で新たな光のコンテンツを発展させる提言です。

- Step 1 平和を願う祈りのイルミネーションショーの常設化(稲佐山展望台)
- Step 2 イルミネーションショーを楽しむ「稲佐山を下から見上げる視点場」の創設
- Step 3 稲佐山全体を使った平和を願う祈りのイルミネーションショー 「長崎"光祈の刻" Nagasaki "mitsuki no toki"」
- Step 4 長崎のまち全体を使った平和を願う祈りのイルミネーションショー 「長崎"光祈の刻" Nagasaki "mitsuki no toki"」

Step 1 平和を願う祈りのイルミネーションショーの常設化(稲佐山展望台)

平成26年、我々は"長崎がんばらんば国体" 及び"長崎がんばらんば大会"に合わせて 「光のおもてなし2014」として仮設で稲佐山 電波塔のライトアップを実施しました。その中 でも特にインパクトが大きかったのが「長崎 夜曲」に合わせて行った音と光のイルミネー ションショーでした。





定刻毎に延べ100回以上実施しましたが稲佐山 展望台に来た観光客の注目も高く、非常に 手応えを感じました。現状では全国で約30の タワーがライトアップされていますが、音楽と 連動したイルミネーションショーは行われて いません。

最新鋭のLED機器でライトアップされる稲佐山の電波塔。イルミネーションショーを行えばその性能をいかんなく発揮するでしょう。イルミネーションのプログラミングと稲佐山展望台にスピーカーなど音響装置を設置するだけで、大きな設備も伴わずに低コストでイルミネーションショーの実現が可能です。電波塔が音楽に合わせて次々と様々な色に彩られる時間帯を設けることでライトアップにメリハリが出来ます。長崎の独自の魅力ある夜景と厳かな音と光のイルミネーションショーによって日本で一番支持される夜景を目指しましょう。

今年10月には、"ねんりんピック長崎"が開催され、JRグループが全国に発信する"長崎デスティネーションキャンペーン2016"も同月からスタートします。今より更に多くの観光客が長崎を訪れます。世界新三大夜景認定4周年記念となる10月5日を、イルミネーションショー常設のオープンニングの日にしてはいかがでしょうか。



音響装置の設置費は、100~150万円です。

全国に先駆けて音と光のイルミネーションショーを常設化できれば長崎夜景の魅力向上に大きな可能性をもたらしてくれます。

世界一の夜景を目指して常設化するので あれば、ふるさと大使福山雅治さんもショー にあわせた楽曲の監修など、協力を前向きに



検討すると言っていただいています。楽曲「クスノキ」などにあわせた、「平和を 願う祈りのイルミネーションショー」が実現すれば、大きな話題になるでしょう。

長崎に夜景を見に訪れてくれた方々の幸せを願い、平和への祈りを長崎から発信する、毎晩20時からの約10分間のイルミネーションショーを、稲佐山山頂の新たなイベントとして長崎夜景のシンボルにしましょう。

Step 2 イルミネーションショーを楽しむ「稲佐山を下から見上げる視点場」の創設

平成26年の長崎市への観光客数は約630万人。長崎市の取り組みにより、観光客数はこれまでで過去最高を記録しています。一方で稲佐山展望台の利用者は55万人。こちらも年々増えてきてはいますが、9割以上の観光客は、稲佐山から見下ろす、世界新三大夜景を見ずに帰っていることになります。

長崎市の観光動向 観光客数 (平成26年)

630万6,800人【過去最高】 前年比3.8%增

① 宿泊客数 274万1,500人(前年比 1.8%增)

日帰り客数 356万5,300人(前年比 5.4%増)

② 個人客数 538万9,400人(前年比 4.6%增)

団体客数 91万7,400人(前年比 0.7%減)

一般団体客数 63万2,200人(前年比 1.9%增)

稲佐山山頂展望台等利用者数推計

(単位 千人)

年度	展望台利用者	ロープウェイ利用者
H20	268. 1	88. 5
H21	360. 6	92. 9
H22	379. 3	90. 3
H23	399. 3	107. 4
H24	492.4	156. 7
H25	549. 2	180. 1
H26	546. 1	190. 3

その9割以上の観光客にも、稲佐山にできるだけたくさん登っていただき、「稲佐山からの見下ろす夜景」を楽しんでもらうことはもちろんですが、登らずとも手軽に楽しめる「稲佐山を見上げる夜景」を充実させることができれば、その手軽さと美しさから、さらに観光客の増加につながることになります。

上から見下ろす視点場は充実していますが、下から見上げる夜景にこそ発展させる 余地がたくさんあり、視点場に登らない観光客にも長崎夜景を楽しみ印象付けるため、 イルミネーションショーを楽しむ、下から見上げる視点場の創設を提言します。音響 設備を設置すれば山頂のイルミネーションショーを下からも楽しむことができ、新たな 夜景スポットになります。

ここで「稲佐山を下から見上げる」視点場をいくつか検討してみました。 常設で2ヶ所、期間限定で2ヶ所の計4ヶ所を選定いたしました。

① 出島ワーフ

長崎国体期間中、電波塔のライトアップに合わせた演奏会を2度実施しましたがとても良い雰囲気で県外から来た国体の選手達にも楽しんでいただけました。観光客にも間違いなく喜ばれるものになります。飲食店が多いので、家族や恋人、友人と食事をしながら、音楽と夜景のイルミネーションを堪能することができます。またライトアップされた観光丸、ジャイアントカンチレバークレーンなども見ることができます。音響設備を常設すればイルミネーションショーを楽しむことが出来ます。







② 元船桟橋

稲佐山山頂の真正面で距離も近く、長崎港越しに美しい夜景が楽しめます。香港のビクトリアハーバーにも似た雰囲気です。付近には駐車場が多く、ベンチも整備されています。こちらにも音響設備を常設しましょう。防災放送にも活用でき、市民の安全にも寄与します。





③ グラバー園 (特別期間限定)

昨年は約150日、20時以降まで営業時間の特別期間でした。既に設置してある音響設備を使用し山頂と同じ音楽を流すことにより、新たな支出を発生させずに、イルミネーションショーを楽しむことができます。年末年始のロマンティックイルミネーションの期間には園内でイルミネーションショーが既に実施されており、園内と電波塔の連動したイルミネーションショーが実現すれば見応えがあるでしょう。20時閉園の日(昨年は約50日)を、イルミネーションショーの終わる20時10分以降の閉園とされると良いかと思います。







④ 水辺の森公園 (イベント期間限定)

みなとまつりや帆船まつりなどイベント期間、イルミネーションショーに合わせて山頂と同じ音楽を会場でかけることにより、花火の打ち上げを待つ多くの市民と観光客に楽しんでいただくことができます。公園にいる数万人の市民や観光客により、長崎の「平和を願う祈りのイルミネーションショー」はSNSを通じ世界へ発信されます。







イルミネーションショーのための10分間の楽曲は、稲佐山展望台以外では見上げる 視点場に行かないと聞くことが出来ず、見上げる視点場への誘客が期待できます。 手軽に楽しめる「稲佐山を下から見上げる夜景」の美しさとイルミネーションショー により、「世界新三大夜景」も楽しみたいと考える人が増え、稲佐山からの夜景を 9割以上の観光客が見ていない、という状況を変えることにつながります。そして、 それにより長崎の夜景はさらに認知度が高まり、交流人口の増加につながっていくの ではないでしょうか。

Step 3 稲佐山全体を使った平和を願う祈りのイルミネーションショー 「長崎"光祈の刻" Nagasaki "mitsuki no toki"」

世界には多数の大規模なイルミネーションショーが存在し、観光資源として活用 されています。

① シンフォニー・オブ・ライツ/香港

香港島を中心に、九龍半島のビルを含めた45棟の高層ビルに設置されたレーザーとサーチライト、そしてハーバーサイドで奏でられるシンフォニーが織り成す、光と音が作り出す壮大なページェントです。

海沿いのビクトリア湾とそれを挟む香港島と九龍側のビル群というダイナミックな演出で、香港島の海沿いにある23のビルと、九龍にある22のビルが音楽とナレーションに合わせてレーザーライトが当たったり、カラフルにライトアップしてショーは進行していきます。

連日20時より13~14分間開催されており、2005年、「世界で最も長期間継続されている大規模な光と音のショー(Largest Permanent Light and Sound Show)」としてギネスブックにも認定されました。





② ワンダー・フル/シンガポール

マリーナ・ベイ・サンズと湾に面したイベントプラザで繰り広げられる、光と水のショー。

毎晩20時と21時30分から開催されており、金曜・土曜は23時からも。 レーザーやライトアップに加え、水に映像を投影するショーも行われています。





稲佐山全体を使った「平和を願う祈りのイルミネーションショー」の開催・常設化を提言いたします。



このショーは、稲佐山にサーチライトを設置し、先述した電波塔のイルミネーションショーに加えて、音楽に合わせてムービングを行うもので、稲佐山を見上げることができる視点場からならどこからでも楽しめるショーです。

サーチライトを使った演出では、昨年末の「NHK紅白歌合戦」の際に、MISIAさんが

平和公園にて行った演出が記憶に新しいです。青いサーチライトの美しい映像は多くの人の感動を呼び、平和公園近隣の市民が撮った写真がFacebookやTwitterを通して瞬く間に全世界へ発信されました。





<設置場所の検討>

設置場所は、稲佐山観光ホテル、長崎スカイホテル、ルークプラザホテル、ホテル 清風、ガーデンテラスホテル、アマンディなど、まずは稲佐山中腹に所在するホテル に協力を要請するのはどうでしょうか。

各ホテル毎に配色し、自身のホテルが「○色」とすることで宣伝広告にもなりますし、それぞれのホテルにサーチライト、イルミネーションショーの情報発信の協力要請ができます。合わせて、管理協力もできるかもしれません。

サーチライトは防雨型で制御機器込みで1基あたり600万円で購入出来ます。中腹の6つのホテルに約4,000万円で常設することが出来ます。





<視点場・開催時間>

先述した出島ワーフ、元船海岸、 グラバー園、水辺の森公園の他、女神 大橋、鍋冠山はもとより、市内各地が 視点場になります。

多くの人がまだ活動している20時から10分程度、連日開催することで、 多くの観光客に楽しんでもらうことが できるでしょう。



連日開催されるイルミネーションショーは、現在1割の観光客しか「世界新三大 夜景」に触れてない現状を打破でき、総じて『長崎の夜景』を通年の観光資源として 活用することができるようになります。

そして、『ランタンフェスティバル』等でも感じ取られる長崎特有の「あたたかな 光」をテーマとした常設型の『平和を願う祈りのイルミネーションショー』は、数多く の人・メディアによって発信され、交流人口の増加に繋がっていきます。

また、雨雲で山頂が綺麗に見えない日もありますが、中腹からのサーチライトが雨雲に乱反射し、幻想的な雰囲気につつまれるでしょう。雨天時は夜景観賞には「残念」という感覚がありますが、雨や曇り空の時だけ見られる雲プロジェクションとしての効果もうまれます。





Step 4 長崎のまち全体を使った平和を願う祈りのイルミネーションショー 「長崎 "光祈の刻" Nagasaki "mitsuki no toki"」

長崎の夜景の最大の強みはすり鉢状の地形です。稲佐山中腹のホテルだけではなく、 長崎市内の各観光地、平地にある企業やホテル、平和公園、風頭、立山、鍋冠山、 金比羅山などにもサーチライトを設置し、すり鉢状の長崎の街全体をステージとした 世界でも唯一無二の「平和を願う祈りのイルミネーションショー」へと昇華させま

しょう。まさに長崎のまちをあげての「光のおもてなし」です。

観光丸など、船に設置すれば海上からのサーチライトも可能です。海上からのサーチライトは、ボイジャー・オブ・ザ・シーズの出港時間が遅い日に実施されていますがとても見応えがあります。





家庭用のLED投光器や携帯用のLEDフラッシュライトも安価で普及してきました。

家庭用LED投光器を使えば斜面地に住む市民もイルミネーションショーに参加出来ます。ショーに参画してもらうことにより斜面地の住人の夜景への意識が高まれば、懸案となっている斜面地の明かりの確保にも繋がるかもしれません。

また、LEDフラッシュライトを使えば観光地を訪れている観光客もイルミネーションショーの参加者になれます。平和公園や西坂公園などで、観光客にも参加していただきましょう。



市内各地で毎晩、光のショーを身近に体感できるようになります。今日一日平和に過ごせたことに感謝をし、明日の幸せを願う10分間の祈りのショー。SNSを通じて「長崎は夜20時から幻想的な時間が始まる」と世界へ発信され、長崎の夜のイベントとして認知度を向上させる事ができます。

「平和都市長崎」としての知名度は高いですが、「夜景のまち長崎」としての知名度 も高まるでしょう。





その他 夜景の魅力向上コンテンツ

① 稲佐山展望台イルミネーションパネル

電波塔のライトアップ常設化が実現されて行く中、併設されている展望台に目を向けると、そこだけが暗く少し寂しい感じがします。展望台の回廊部分の窓ガラスに、LED照明パネルをハメ込み、様々なメッセージや映像等をコンピュータ管理で写しだし稲佐山の夜景に一花添えてみてはいかがでしょうか。記念日の告知や、誕生祝い、はたまた愛する人へのメッセージ等ドラマチックに演出出来るものと思います。イルミネーションショーと連動させて光ると更に効果的になるでしょう。



② LEDを使用した稲佐山中腹の文字

展望台のイルミネーション化と共に稲佐山中腹にもLED照明を設置してみては と思います。国内外からお越しになるお客様をお出迎えするためメッセージを浮かば せてみるとどうでしょう。歓迎ムード満点のシチュエーションになること間違いなし と思います。





稲佐山展望台からの夜景の美しさにプラスして、下から見上げる夜景に遊び心を 演出することで、観光に来た方が少しでも和やかな気持ちになって頂ける事と、市民 の方々が夜景の演出に積極的に参加して頂ける様工夫することで、今よりもっと魅力 ある街になる事と思います。クルーズ船の出港に合わせ、旅の無事を祈って逆さ福を 写しだせば中華圏の方々に拡散していただけるのではないでしょうか?

③ サーチライトを使った演出

市内各地のサーチライトを使用して稲佐山展望台にサーチライト点灯スイッチを設置し、そのボタンを押すと観光地や施設からサーチライトが数秒間点灯することで観光で稲佐山展望台に来た方々が稲佐山と自分が泊まっているホテルや観光地の位置関係を、容易に確認することが出来るようになります。



6. まとめ

交通インフラを整備し見下ろす視点場へ誘客するとともに、下から見上げる夜景の整備

など、さらなる長崎夜景の魅力向上に提言させていただきました。LEDなど照明機器の技術革新のスピードは速く、お台場やハウステンボスなどで先進的な光のショーが実施されていますが、長崎市は光の量や明るさで競う必要ありません。すり鉢状の恵まれた地形を最大限に活かし、立体的な夜景の厳かな演出に磨きをかけましょう。



一度には無理でも毎年発展させ、平成32年までにインフラ整備をすすめ東京オリンピックに訪れた多くの外国人観光客に喜ばれる夜景プログラムを提供し、何度も訪れたくなる夜景の美しいまちとしてブランディングしましょう。



稲佐山電波塔ライトアップの参考にさせていただいた室蘭の測量山は、今年の4月に電波塔連続点灯1万日を迎えます。室蘭市民の「室蘭を愛する想い」によりたいへん大切にされてきた「希望の灯」です。

我々も地形に恵まれた長崎の夜景を大切にし、「祈りの灯」をより発展させながら継承 していきましょう。新たに魅力を増す長崎の夜景を長崎市民がもっともっと好きになる こと、愛着を持つことがひいては定住人口の下げ止まりにつながるのではないでしょうか。



「長崎の夜景は世界一すごい」と市民や子供達が郷土の夜景に誇りを持つ、その事が最大の地域活性化であると考えます。

おわりに

長崎YEG、平成27年度は定住人口編、交流人口編の二つの政策提言をさせていただきました。いかがでしたでしょうか。ただ提言するだけではなく、次年度以降で提言したことの具現化につなげる取り組みも行っていきます。

定住人口に関しては、今後の長崎市の人口予測など、知れば知るほど問題の重大さが認識され、将来の長崎を思うと胸が痛くなります。地方創生の名のもとに各自治体が知恵を絞り、少子高齢化の対策を始めていますが成果が出るには時間がかかります。ただし目に見えて結果が出なくても粘り強く取り組み続ける必要があり、我々のような育児世代の青年団体が実情を知り、対策を考えることは非常に意義があるといえます。今行われている長崎さるくや地元企業の活動をもっと活かし、子供や学生達が普段暮らす街の魅力に触れる機会を増やす事が出来れば、将来の人口転出も緩やかになるのではないでしょうか。

当面は残念ながら落ち込む定住人口を交流人口の増加で補わなければなりません。 交流人口は世界遺産、クルーズ船の増加、交通インフラの充実、観光立国ショーケース など追い風であり、大きなチャンスを迎えています。観光客に繰り返し長崎を訪れて いただく上で、夜景にこそ大きな可能性があります。夜景には性別や世代、民族や宗教 の違いを超えて伝わる大きな力があります。長崎の持つ、すり鉢状の恵まれた地形を 活かして夜景観光を徹底して磨き、徹底して発信し、世界中に長崎夜景のファンを増やし ましょう。世界新三大夜景で満足せずに夜景世界一のまちを目指しましょう。

今回の二つの政策提言、提言の中身は全く違いますがどちらも行き着いた結論は長崎市民にもっともっと長崎の魅力を知ってほしい、愛着を持ってほしいというものでした。歴史あふれる地元の魅力に触れることにより、あるいは世界で一番の長崎の夜景に触れることにより、我々一人ひとりが郷土に誇りを持てば、長崎はもっと元気になれると信じています。

長崎商工会議所青年部 地域政策担当副会長 末 石 順